倉田雲平とつちやたび（現ムーンスター）

❶つちやたび創業の地

明治 6 年（1873）10 月、初代倉田雲平は米屋町の一角に家を借りて、「つちやたび店」を創業した。ゴムの街久留米への第一歩はこの小さな店から始まったのである。

❷西南戦争本営跡

明治 10 年（1877）の西南戦争の際、現在の明善高校に本営が設置された。雲平は軍用のたび 2 万足、シャツとズボン各 1 万足を受注し納入。しかし、追加の売込みには失敗して無一文になった。この時、身を以て商売の厳しさを知ったといわれる。

❸紙金蒲鉾店跡

商売も明治 20 年代には軌道に乗った。従業員も 30 人を超えるまでに増えている。雲平夫妻は従業員の健康を重視し、同店から魚を購入して食事に供した。当時、従業員に対する好待遇は街の評判になったという。

❹白山工場

従業員の養成と品質の向上、生産の機械化を進める雲平は、手狭になった工場を米屋町から白山へ移転した。工場は明治 41 年（1908）操業を開始。蒸気動力を導入して、生産能率は一気に 3～4 倍に飛躍した。大正 7 年（1918）に社長となった泰蔵は、同 11 年（1922）、工場の一角にゴム工場を建設し、ゴム底の地下足袋や、現在の主力商品である布靴、ゴム靴の生産を開始した。昭和 6 年（1931）には、月星印の商標で世界市場へ進出した。

※QRコードから各ホームページにアクセスすることができます。

石橋徳次郎・正二郎兄弟とゆかりの地（現アサヒシューズ／ブリヂストン）

❶アサヒシューズ本社社屋

大正 7 年（1918）、志まやたびは日本足袋株式会社となり、洗町一帯に工場を建設した。同 13 年（1924）に大火に見舞われるが、翌年再建。現社屋は昭和 5 年（1930）建築。現在はアサヒシューズに社名を変更している。

❷石橋正二郎生誕の地碑

明治 22 年（1889）初代徳次郎の次男として苧扱川（おこんがわ）一丁目（現本町）に出生。久留米商業学校の卒業を契機に、兄の 2 代目徳次郎とともに店の事業を継承した。この時「志まやたび」の商品名が誕生した。

❸梅林寺外苑

開山 350 年事業として昭和 33 年（1958）に完成した。園内のティーハウスは、菊竹清訓の設計で令和 3 年に国の登録有形文化財となった。梅林は市民から献木されたもので、久留米の春を告げる観光名所の一つである。

❹有馬記念館

昭和 35 年（1960）、郷土資料の調査・研究を目的に石橋正二郎が市に寄贈、市制 120 周年にあたる平成 21 年度に改修された。設計は菊竹清訓。茶室千松庵の寄贈や東郷平八郎元帥の書斎も現在の場所に移築された。

❺石橋正二郎像と久留米大学本館

九州医学専門学校（現久留米大学）創立に際し、石橋正二郎が土地と建物を寄付。設計は松田昌平で正二郎は建物の設計にも参画。施工は松田組、ロマネスク様式の格調高い建物である。令和 3 年に国登録有形文化財となる。

❻洋画家坂本繁二郎生家

青木繁と並ぶ近代洋画の巨匠坂本繁二郎の生家。久留米に唯一残る武家屋敷である。石橋正二郎は、久留米高等小学校時代に坂本に絵を教えられた。この縁から後に青木繁や古賀春江など郷土出身洋画家の作品を収集する。

❼石橋記念くるめっ子館

昭和 32 年（1957）に市長公舎として名誉市民である石橋正二郎により建設・寄贈された。設計は久留米市出身の菊竹清訓である。平成 14 年（2002）にリニューアルされ、市が管理運営して、青少年育成事業を展開している。

❽千栄禅寺／石橋徳次郎・正二郎墓

昭和 34 年（1959）に石橋正二郎が本堂庫裡を寄進。解体された紡績会社倉庫のレンガを再利用した外壁やステンドグラス窓を使った本堂の内外に合理性と独創性が感じられる。菊竹清訓の設計。石橋家の菩提寺でもある。

ドイツ兵捕虜の足跡

❶江南山梅林寺

旧久留米藩主有馬家の菩提寺。霊屋は国重要文化財で墓所は国史跡である。青島の戦いで捕虜となったドイツ軍の将校が大正 3 年（1914）10 月～ 11 月、書院と旦過寮へ収容された。

❷久留米城・篠山神社

廃藩置県の後、石橋徳次郎・正二郎兄弟の祖父緒方安平ら有志は、民間に払い下げられた城跡を買い戻した。本丸跡には明治 10 年（1877）に神社を建立、初代藩主有馬豊氏らを祭神とした。同 12 年（1879）には篠山神社と称した。また、第一次世界大戦のドイツ兵俘虜収容所が久留米に設置されると、捕虜達が散歩や遠足で訪れた。本殿は明治 12 年の建築で、令和 4 年に国の登録有形文化財となった。

❸久留米高等女学校跡

大正 8 年（1919）12 月 3 日、捕虜楽団によって、女学生や教職員の前でベートーヴェンの「第九」が演奏された（第 4 楽章を除く）。日本人の聴衆向けに「第九」が演奏されたのはこれが初めてである。ひときわ大きい拍手に楽団員たちが大変感激したことが日記に書き残されている。その 2 日後、収容所では男性パートのみで合唱付きの全楽章が演奏された。なお、同校は昭和 9 年（1934）、旧有馬家別邸（現県立明善高グラウンド北側）へ移転した。

❹旅館青々館跡

陸軍御用達の旅館で、軍関係者の宿泊も多かった。2 代目収容所長だった真崎甚三郎も定宿とし、ここから騎馬で国分村の収容所に通勤。

❺杉野歯科医院跡

衛兵の付き添いで毎日 4 ～ 5 人程の捕虜の歯の治療に当たった。大正 7 年（1918）6 月からは、収容所内の一室で治療が行われた。

❻松山屋（松尾ハム）跡

天主堂教会ミセル・ソーレ神父の依頼で長崎で食肉業を営んでいた松尾音吉が教会横に移転開業した。捕虜収容所へハムやソーセージを納入、大正 4 年（1915）5 月、収容所長より感謝状が授与された。その製造法は捕虜のアウグスト・ローマイヤ（ロースハムの生みの親）に伝授されたといわれる。

❼恵比須座跡

1,300 人収容の戦前における久留米最大の劇場。捕虜たちは帰国直前の大正 8 年（1919）12 月 19 ～ 21 日、同劇場で「独逸人演芸会」を開催。多くの市民がその音楽と演劇を楽しんだ。昭和 20 年（1945）8 月 11 日の空襲で焼失。

❽日吉神社

捕虜収容所前にあった同神社では、捕虜がサッカーなどのスポーツに興じた。境内が狭いため、ボールは蹴らずに持って走ることもあったらしい。西洋スポーツを間近に見る物珍しさから人だかりができたという。

❾石橋文化センター

ブリヂストン会社創立 25 周年記念事業として建設、久留米市に寄贈された。正門壁面には「世の人々の楽しみと幸福のために」という正二郎の言葉が刻まれている。